

参院選での争点化避け、参院選後 南スーダンPKO、「駆けつけ警護」任務付与へ

政府は6日、11月に南スーダンの国連平和維持活動(PKO)に派遣する陸上自衛隊の部隊に、3月に施行された安全保障関連法で実施可能になった「駆けつけ警護」と、「宿営地の共同警護」の任務を付与する方針を固めました。複数の政府関係者が明らかにしました。近く、新任務実施のための訓練開始を正式に発表する方向です。

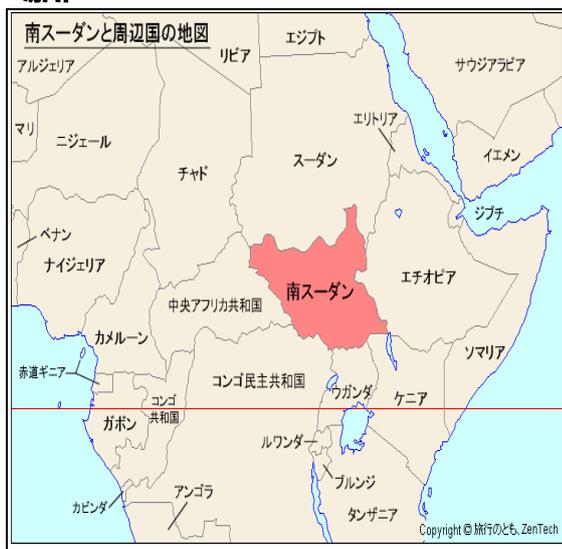
安保関連法(戦争法)の施行により、改定PKO協力法で、現地で国連職員や民間人、他国軍兵士らが武装集団などに襲われた場合に陸自部隊が救援に行く「駆けつけ警護」ができるようになったほか、宿営地を他国軍と共同で警護することが可能となりました。従来のPKO法では、自衛隊員が武器使用できるのは「自己又は自己の管理下にある者」の正当防衛に限られていましたが、駆けつけ警護により、初めて任務遂行の武器使用が可能になりました。

政府は第11次要員への交代に合わせ、これらの任務を追加するための調整を本格化させます。今月下旬には、稲田防衛相が必要な訓練の開始を発表し、訓練に着手する考えです。

防衛省・自衛隊は当初、安保関連法(戦争法)施行と同時にPKO部隊に新任務を付与する計画でしたが、政府は、7月の参院選で争点化されるのを避けるため、先送りして来ました。また、新任務を実施する上で必要な訓練をこれまで行わず、武器使用の範囲などを定める部隊行動基準といった内部規則の作成やその周知徹底などにとどめてきていました。

知っていますか？ 南スーダン

<場所>



<現状> 9日は150人死亡

独立から5年を迎えた9日、前日には首都ジュバでキール大統領派とマシャール副大統領派の兵士が衝突し、副大統領報道官によると少なくとも150人が死亡。ジュバの緊張は高まっており、内戦再燃の恐れも出ている。報道官は、キール大統領とかつて反政府勢力指導者だった副大統領の「双方の警護部隊全てが交戦した。死者は増える見通しだ」と語った。戦闘は大統領と副大統領が大統領府で会談している際に発生。小火器から重火器にエスカレートし、複数の場所で迫撃砲の音が響いた。両派による戦闘は4月の暫定政府発足後初めて。ジュバは厳戒態勢が敷かれ、外出する市民はまばら。各国政府は南スーダンからの退避勧告を出した。

炎天下の中、「憲法を守り生かそう」と

憲法共同センター「9の日」行動

憲法共同センター(戦争する国づくりストップ!憲法を守り・いかす共同センター)は、9日のお昼、東京・新宿駅前で憲法を守り生かそうと呼びかける「9の日」宣伝行動を行いました。37度の炎天下のなか21人が参加し、約1時間の行動でしたが、チラシを配り、戦争法の廃止を求める署名を集めました。

青年が自分から「ビラください」と声をかけてくるなど、チラシ受け取りもよく、準備したテッシュ入りチラシは500枚ほぼ撒きまきました。署名は21筆集まりました。

宣伝カーの上から、マイクを持って訴えた吉良よし子参議院議員（小田川我作土刀屋蔵長りよ、9日は長崎に原爆が投下された日であり、核兵器の廃絶を訴え、そして、憲法を守り生かそうと訴えました。

小田川議長は「今なお多くの被爆者の方が苦しんでいます。核兵器は人類と共存できません」と強調し、国連では核兵器の全面禁止に向けた議論が進んでいるとして「日本はいまだに核抑止論にしがみついています。唯一の被爆国として、平和憲法を持つ立場からも日本には責任があります」と語りました。

そのあと、全日本民主医療機関連合会の木下興さん、全国商工団体連合会の長尾桂子さん、新日本婦人の会の児玉紀子さん、自由法曹団の今村幸次郎さんがマイクを握り、核兵器や原発をなくすことの重要性を語り、「ヒバクシャ国際署名」を成功させよう、さらに「310万人の日本国民の命と2000万人以上のアジアの人々の命を奪ったあのような戦争を再び起こしてはならない」と訴えました。そして、その悲しみの上に「二度と戦争しない」と誓ったのが日本国憲法であり、その「憲法を安倍首相に勝手に変えさせてはならない」と、憲法改悪を許さないたたかいを広げよう、と訴えました。

また、忙しい中、駆けつけた日本共産党の吉良よし子参議院議員も、被爆の実態を紹介し、「人間らしく生きることも許されない核兵器を廃絶させよう」、そして「安倍政権による改憲の動きを、国民の力で阻止しましょう」と、力強く訴えました。この訴えに、年配の女性がチラシを配布していた参加者に「吉良さん、すごいね。いい話だ」と語りかけて来ました。



チラシを受け取った84歳の女性は、「もう二度と戦争はごめんです。沖縄のことを心配しています。なぜ政府は県民が反対しているのに米軍基地を押し付けるのか。政治を変えて、本当の意味で、日本を平和にしたい」と語りました。

また、署名行動に参加した年配の男性は、「大変暑いなかの行動でしたが、チラシの受取りもよく、安倍首相の改憲を許さないとの声広がっていると実感した。気持ちのいい行動でした」と語っていました。

各地のとくくみ

「アベ政治を許さない」と夏まつりの東北でも

3日、作家で9条の会の呼びかけ人の澤地久枝さんらが提起した行動が、夏祭りのにぎわう東北

各地でも行われました。

ねぶたの青森

青森駅前公園には、25人が参加。青森ねぶた祭に訪れている観光客や家族連れの人たちが往来する中、「戦争法はただちに廃止」「9条を守れ、憲法改悪反対」と力強くコールする参加者の姿が、注目を集めていました。

マイクを握った参加者は「平和だからこそ、祭りができ、観光客が来て、笑顔がある。戦争する国づくりを進める安倍政権に反対し、憲法守れの声を一緒にあげましょう」と呼びかけました。

駅前公園内むで屋台を出店していた女性が、「仕事をしているから参加はできないけど、私もあなたたちの意見と同じだから、頑張る」と声を寄せました。



さんさ踊りの岩手

1日から4日まで開催された盛岡さんさ踊り。その期間中の3日。岩手県革新懇と盛岡革新懇は、盛岡市で戦争法廃止の署名を呼びかけました。

参加者らは、参院選に続いて東京都知事選で4野党と市民の共闘が進み、統一候補の鳥越俊太郎氏が大胆闘したと強調。「参院選で改憲勢力が議席の3分の2を占めたが、国民は憲法改悪を支持したわけではない。9条を守る運動を広げよう」と訴えました。

署名した66歳の男性は「参院選でふれなかったのに、終わったとたんに憲法改定を言い出す安倍首相は、ダメだ」と話しました。54歳の女性は「息子が戦場へ行かされるのは、どうしても止めたい。日本の平和は憲法9条で守られてきた。変えてはならない」と語気を強めました。

竿燈の秋田

秋田市では「秋田九条の会」などが呼びかけ、同日から始まる「秋田竿燈(かんとう)まつり」の観光客などでにぎわうJR秋田駅前仲小路アーケードでビラなどを配布しました。ビラを受け取った70代の男性は「平和憲法、9条の通りに進めていけば何の問題もないのに、なんで安倍政権は変えようとするのか。許せないし、戦争なんて絶対反対だ」と批判しました。「私たちがやっています。頑張ってください」と声をかける県外の人もありました。午後1時にポスターを元気に掲げると、子ども連れの家族や夏休み中の高校生などが手を振って激励するなど、注目を集めました。

潟上市では「潟上九条の会」が県道沿いで行動。「子どもたちを戦場に絶対送らない」の手作りボードやのぼりなどを手に、信号待ちの車や買い物客などへアピール。車から笑顔で手を振る人や、通りがかりの女性が声をかけ「私も何かお手伝いしたいので、今度声をかけてください」と激励。参加者らは「暑い時期だけど、来月も元気に頑張ろう」と意気込んでいました。

花笠の山形

5日から8日まで花笠まつりが開催された山形。3日は、炎天下にも負けず「やめさせよう!安倍内閣 市民の会」は、山形市内でアピール行動をしました。

気温30度を超える炎天下、交差点に立ち、通りかかる車に手を振りながらのスタンディング。参院選で改憲勢力が3分の2を占めて憲法改悪の動きが加速される危険が高まる中での行動に、手を振っていくドライバーも目立ちました。

